

和泉市信太丘陵里山自然公園協議会 令和3年度 第1回企画運営会議 議 事 録

開催日時：令和3年10月12日（火）09：30～11：30

場 所：和泉市コミュニティセンター中集会室

出席者：令和3年度和泉市信太山丘陵里山自然公園協議会会員

(1) 学識経験者〔特別会員A〕(50音順、敬称略)

桃山学院大学社会学部 教授	巖 圭介
大阪市立大学大学院工学研究科 教授	内田 敬
大阪府立大学大学院生命環境科学研究科 教授	藤原 宣夫
大阪府立大学 名誉教授	増田 昇

(2) 地元町会・自治会〔特別会員B〕(50音順、敬称略)

熊田 泰行

(3) その他 前和泉市信太山丘陵保全・活用検討ワークショップ[®] 会員

〔特別会員C〕(50音順、敬称略)	田丸 八郎
	三輪 健一郎

(4) 〔団体会員〕(50音順、敬称略)

信太の森FANクラブ代表	谷口 敏雄
いずみの国の自然館クラブ代表	梁取 征弘
一般会員	森井 豊
同	吉元 孝一

(5) 和泉市職員〔市側会員〕(機構順)

和泉市環境産業部 環境保全課 課長	前田 淳
同 同 課長補佐	関 憲司
同 同 総括主幹	山本 匡志
同 同 自然環境係長	平田 裕樹
同 同 自然環境主事	香山 幸輝
和泉市都市デザイン部 都市整備室 道路河川担当道路G総括主査	八野 豊徳
同 同 同 道路G 主任	井上 恵
和泉市生涯学習部 文化遺産活用課 係長	千葉 太郎
同 同 主事	上田 裕人
和泉市都市デザイン部 建築住宅室 建築G総括主査	門林 一政
同 同 同 主任	北田 聡
同 同 建築設備G総括主査	岸辺 洋輔
同 同 同 主事	横田 雄太
和泉市都市デザイン部 都市整備室 公園緑地担当課長	山抱 正嗣

(6) 事務局 和泉市職員(機構順)

和泉市都市デザイン部 都市整備室 公園緑地担当 整備G総括主査	岩田 真知
同 同 同 緑化推進G主任	野間口 知基
同 同 同 整備G主任	村地 裕士
同 同 同 緑化推進G主事	藤原 祥平

次 第

1. 開会

(1) 会長挨拶

2. 議事

(1) 報告事項

○活動概要報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・資料 1

○個別活動報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・資料 2

① 環境保全活動

② 保全活動ミーティング

③ 事業計画ミーティング

④ 信太山里山講座

⑤ 緑の観察会

⑥ 湿地保全調査（PP で説明）

⑦公園周辺の整備計画など

・信太 5 号線整備スケジュール・・・・・・・・・・資料 3

・惣ヶ池遺跡の発掘調査について・・・・・・・・・・資料 4

(2) 協議事項

1) 公園実施設計について・・・・・・・・・・資料 5

3. 閉会

上記 2. 議事の（1）報告事項「活動概要報告」「個別活動報告①から⑦」について資料 1・2 に基づき株式会社ヘッズより、「信太 5 号線整備スケジュール」「惣ヶ池遺跡の発掘調査について」について資料 3・4 に基づき和泉市より説明を行った。

議事の（2）協議事項「公園実施設計について」について資料 5 に基づき株式会社ヘッズより説明を行った。

議事内容

■報告事項

<信太山里山講座について>

- 里山講座について、オンラインによる対応では一定の限界があるため、可能であれば現地での実技講座を補講などで適切に行うことを検討すること。
- 現地での実技講座は必ず行ってほしい。受講生が現地で実施してこそ楽しい講座になると思う。
→緊急事態宣言は解除されているため、次回から現地での実技講座の実施もあわせて行う。

<緑の観察会について>

- 緑の観察会は、A～Fのグループ単位で解説を行える体制ができているのは良いことだと思う。どの班にはいっても同じような解説を受けられることが良い。そろそろ解説マニュアルなどを作成する必要がある。最近、話した内容を文字に転換できるソフトがある。できれば解説を録音し、それを文字にすると解説本のようなものが作成できると思う。
- 解説本作成に向けて録音だけでなく、録画も合わせて行っていただき、映像を残してほしい。

<湿地保全調査について>

- 湿地保全活動は今後、年間の管理内容や関わった人数を整理したうえで、何が問題でどんな作業が不足していたのか等を洗い出せればよいと思う。他の事例であるが、湿地環境の目標像を設定し、実際に管理を行い、その結果を踏まえて課題整理し、次年度は管理を増やす箇所や、管理を減らしても大丈夫な箇所を提示している。信太山丘陵里山自然公園でも同じように今後の管理の方向性を提示できるのではないかと思う。

<信太5号線整備スケジュールについて>

- 表土保全した際、雨により土が流出しないようにシートをかけておく必要がある。

- 表土の置き場は決まっているのか。

→文化財発掘調査地の脇に残土置き場を設けているのでそこで表土を仮置きする予定である。

<惣ヶ池遺跡の発掘調査について>

- 遺跡の保護の観点から砂で埋め戻すということだが、道路の路面の高さや活動拠点施設の高さに影響はでてこないのか。
→道路、建築の計画にできる限り影響がでないよう、遺構の保存に配慮する。

- 東エリアの尾根部の見晴らしの良い場所など、尾根部を中心に他に埋蔵文化財包蔵地に含まれて

いる可能性はあるのか。施設整備には可能な限りの配慮をお願いしたい。

→包蔵地エリアではないので可能性は低い。包蔵地エリア外では、尾根筋の整備を進める際、必ず試掘などを行う必要はない場所になる。

○弥生時代の竪穴住居があった場所に、活動拠点施設を整備するため、発掘調査により遺構が確認されやことについて表示するなどの検討を行うこと。

○活動拠点施設を整備する際の基礎は、包蔵地であるので、ベタ基礎を用いる認識でよいか。
→ベタ基礎を用いる計画である。

■協議事項

[公園 実施設計について]

【活動拠点施設】

<建築と地面の高さとの関係>

○建物周囲の地面の高さがスロープの設置個所やトイレ前などにおいて地面からプラス 10 cmとなっている。その時は車いすでは通行が難しく、健常者でも転倒の恐れがある。一方、テラス前は±0 cmとなっており、建物周りの擦り付けの考え方を明確にすること。

○グランドレベルの話がでていますが、活動拠点施設の屋外は、どこまでが実施設計の範囲なのか。建築周りについては周囲との摺りつきを整理すること。
→実施設計は活動拠点施設の周辺及び駐車場などを含んでいる。

○建築前の草原とテラスを一体利用する際、車いす利用者もテラスを利用できるよう、テラスに上がれるようにスロープが必要ではないか。
→現在のテラスの計画では地面から 40 cmの高さにテラスが設置されており、車いす利用者がテラスを利用しやすいようになっている。

<トイレ>

○多目的トイレの入り口付近にベビーベッド（折り畳み式）が計画されているが、ベビーベッドは折りたたまれていないと、多目的トイレ内のスペースが狭くなり、当事者から車いすの回転ができないという苦情が発生する恐れがある。東側エリアのトイレ棟と比較して、便器周りのスペースも狭いように感じる。このため、多目的トイレのスペースにゆとりを持たせるように変更すること。男子トイレまたは女子トイレと、多目的トイレとの配置の入れ替えなどを検討すること。
→多目的トイレを含めたトイレの配置については今日の意見を踏まえ再検討する。

<屋根裏の倉庫など>

○屋根裏の倉庫はトイレの天井の上に位置することになるが、木造の建築で強度は大丈夫か。
→構造の強度については問題ない。

○多目的トイレの屋根裏を倉庫として利用する場合、トイレの利用者が不安にならないか。
→基本は管理者が利用することになるが、施設設計や運用について十分検討する。

○活動拠点施設は環境教育に利用される施設なので、今後、屋根に太陽光発電装置を設置できる準備をしておいてもいいのではないか。
→実施設計での対応ではなく、今後の検討課題とする。

<上履き及び土足利用について>

○多目的室は上履き利用の計画になっているが、その際、上履きに履き替えて施設の内部に入りこんで利用してくれるのか不安である。近隣施設である信太の森ふるさと館のように多目的室は土足利用のほうが望ましいのではないか。

○上履きであれば床が利用でき、土足であれば、イスやテーブルが必要になる。今まで事業計画ミーティングで検討してきた内容は、和泉市の小学校一学年が基本3クラスであり、2クラスが屋内の床に座ってプログラムを受け、残りの1クラスが屋外でプログラムを受けるというイメージで多目的室の上履き利用を考えた経緯があったのではないか。その際、多目的室の床の素材は何を検討しているのか。

→現段階では床の素材は決めていないが、保全活動のあとに多目的室を利用する際、床が泥だらけになる恐れがあり、管理面を考えると上履きが良いと考えている。また、他の事例を参考に、イベント時はブルーシートを床に敷き、土足利用をすることも想定している。

○信太の森ふるさと館は土足利用ができるため、利用者が入りやすいと考える。地域の公民館は上履き利用であるが、気軽に出入りできない感じがある。管理側の視点ではなく、使う側の視点を優先するほうが良いのではないかと考える。

○活動拠点施設であれば多目的室は上履き利用にしておいたほうが、活動後のミーティングや、イベント時のセミナールームなどの利用の多様性は確保できると思う。一方ビジターセンターのように多様な展示物があり、イスやテーブルで休憩やお弁当を食べるなど利用が想定されるのであれば、土足利用がのぞましい。どちらを選択するかである。

○保全活動ミーティングの当初は多目的室は上履き、テラスは土足であったと思う。

○小学校の環境学習も重要だが、一般に利用される方に展示スペースを見ていただき、活動する仲間になってもらうために土足で気軽に入ってもらおう方が良いと考える。

○活動拠点施設の性格をもつ施設なのか、日常的に利用できる立ち寄り目的のビジターセンターでの性格をもつ施設なのかで、上履き利用か土足利用かの方向性が決まってくる。上履きか土足かは大きな議題であり、事前の合意が十分ではないと思われるため、事業・計画ミーティングで再検討していただきたい。その後協議については、会長に一任とさせていただきたい。

<管理者の常駐などについて>

○少なくともエントランススペースで展示をするのであれば、その部分をいつも利用してもらえよう常駐の管理者は配置しないのか。毎日常駐は難しくても週の半分は常駐するなどの考え方が整理されているのであれば、教えてほしい。

あと、備品リストに掲載されていないが、事務スペースなどで使用するパソコンなどが必要ではないか。また、イスや机なども数が少ないと考える、座布団はいるのか。

○備品リストについては本日決定しなければならない協議事項か。

→活動拠点施設の工事は来年であり、備品の納入は再来年になるため、今後も検討は可能である。

○施設の管理については毎日オープンするのか、常駐でなくとも朝夕に施設の開閉を行うのか、また、イベント時のみ開けるなど市の管理体制についても建築計画と併せて検討すること。

→活動拠点施設の管理については、事業・計画ミーティングで、屋内は土日祝日のみ開放、トイレとテラスは常時開放ということで当初検討していたので、この条件の中で議論を行うこととなる。

<その他>

○活動拠点施設の北側の冒険遊び場付近で、コンクリートガラなどが現地に埋まっている件についてなどの処分は予定されているのか。開園時には撤去されていて、安全に遊べるようになっているべきである。

→冒険遊び場については、実施設計ではなく将来形を示しているもので、今後も継続検討ということにする。

○遺構について、ガラスの床などの整備により、直接見ることができるよう、活動拠点施設の位置を移動させることは可能か。

→活動拠点施設の位置を移動させると埋蔵文化財調査を再度実施することになるので、活動拠点の位置を変えるだけで完了することはできない。

【トイレ棟】

○東側エリアのトイレ棟は、この方向性でよいこととする。

以上